

科目名	公衆衛生学実習					開講 キャンパス	神 埼
担当者	横 尾 美智代						
開講年次	3	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	本実習は公衆衛生学Ⅰ・Ⅲの学びの集大成という位置づけである。講義で学んだ知識や技能を使って、実際の地域社会（神崎市）での公衆衛生学的問題の解決に取り組むことが本実習の中心的な取り組みである。また集団生活の危機管理として感染症予防対策についても実習する。問題解決のための分析力、思考力、実践力、コミュニケーション力の向上をねらいとしている。						
授 業 の 到達目標	1. 地域社会の問題を理解し、その背景を理解することができる 2. 問題解決に必要なポイントを列挙できる 3. グループディスカッションに積極的に参加することができる 4. 倫理的問題に気付き、対応することができる 5. パソコンを使って、簡単なデータ処理ができる 6. 問題を熟考し、自分（グループ）の考えを論理的にわかりやすく表現することができる 7. 地域の人々と積極的に触れ合うことができる 8. 地域での感染症蔓延の重大性に気付き、初期予防対策を講じることができる						
学習方法	地域での実践活動、グループワーク、プレゼンテーション、						
テキスト及び参考書等	1. 田中平三、徳留信寛他編、『健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康（改定第3版）』南江堂 2. 追加資料は適宜配布予定						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート	○	○		◎			20
授業態度			○				10
受講者の発表	○	○		◎			30
授業への参加度			○				40
その他	プレゼンに対する学生同士での評価（グループ間評価）も参考とする						
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）【実習場所】							
第 1 週	ガイダンスと問題提起：実習の説明と地域での健康問題の復習【大学】						
第 2 週	地域での問題を理解し、背景を考える：問題点理解と集約のためのグループワーク【大学】						
第 3 週	地域での問題を理解し、背景を考える：グループワークの発表とディスカッション【大学】						
第 4 週	対応策を考える：GWの結果から得られた方向性に向けて、活動内容を考える試み【大学】						
第 5 週	現場を見る、知る、聞く（1）：神崎市を歩き、神崎市の特徴を知る【神崎市】						
第 6 週	現場を見る、知る、聞く（2）：グループワークの成果を地元関係者に発表、意見交換【神崎市】						
第 7 週	実践に向けての準備（1）：各グループごとに準備活動【大学】						
第 8 週	実践に向けての準備（2）：各グループごとに準備活動【大学】						
第 9 週	実践（1）：自分たちで計画した公衆衛生活動の実践【神崎市】						
第 10 週	実践（2）：自分たちで計画した公衆衛生活動の実践【神崎市】						
第 11 週	実践（3）：自分たちで計画した公衆衛生活動の実践【神崎市】						
第 12 週	評価：地元関係者、保健医療従事者と活動内容について意見交換【神崎市】						
第 13 週	集団を守る問題への取り組み（1）：地域での感染症蔓延対策を考えるグループワーク【大学】						
第 14 週	集団を守る問題への取り組み（2）：ノロウイルス対策を想定した実践実習【大学】						
第 15 週	まとめ						
第 16 週							
備 考	1. 教科書、これまでの講義ノートを活用する。必ず持参すること。 2. 授業準備：事前学習として1～2年次の学習の復習課題を課す。事後学習として実習中の学びをグループあるいは自分の家族などと話し合いをして意見を集約すること。 3. 評価の一部はグループ単位の評価である。お互いを尊重しあい積極的に参加すること。 4. 地元神崎市の人たちに皆さんの学びに対して協力をお願いしている。失礼がないよう注意すること。						